

淨土真宗東本願寺派野中山正山寺

ほつ寺通信

※ご家族でご覧ください

第18号

平成31年3月1日
発行責任者：藤野慶正
(住職)

春の彼岸

3月18日（彼岸入り）
3月21日（中日・春分の日）
3月24日（彼岸明け）

（日）と21日（木・中日）に交換整理をお願いする予定です。参詣の際は、呉々も事故の無いようお気を付けてお越し下さい。

永代供養合同法要

3月21日（水）午後2時

彼岸の中日の午後2時より、永代供養「正安の縁」会員の方向けの合同法要を行います。※雨天決行。本堂にて読経後、永代供養墓にお参りします。

参加される方は、開始10分程前に本堂にお越しください。お早くお着きの方は、休憩所等でお待ちください。※費用不要。御一緒に正信偈を読み、納骨されている方に思いを巡らしつつ、御本尊阿弥陀様に報恩感謝致しましょう。

事務的には色々変更しなければならないことも多く頭が痛いところですが、要は考え方次第ですね。3月といえばお彼岸。ご先祖あつての私達、阿弥陀様そしてご先祖様に思いを巡らしお墓参りをされ、心新たに新年度・新学期、そして新元号を迎えて下さい。

数珠は念珠とも言い、仏前に礼

拝するときには欠かせない法具です。皆さんも一つはお持ちではないでしょうか。ある方から正山寺（浄土真宗東本願寺派）の正式な数珠を教えて欲しいと聞かれ「正式なものがあるかどうか分からなので調べておきますが、珠の数は煩悩の数にちなんで108個や、その半分の54個や1/4で、一輪や二輪の形がある」程度のお話をしました。しかし、普段使うことの多い一輪の数珠を調べてみると、珠の数は20個や22個。（親玉と小さなつなぎ玉は除きます）どう倍数計算しても108個になります。（笑）

まず、一輪か二輪ですが、正式なものは108個の珠で出来た二輪（主に僧侶が法要で用いる）になります。これを略したもののが一輪で略念珠とも呼ばれています。この略念珠には珠の種類や数等色々なものがありどれを買つたらよいか迷うかと思います。しかし、略式であるが故、正式なもののはなく、一般的な次の写真のような数珠を各自の好みに合わせ揃えられるのが良いかと思います。

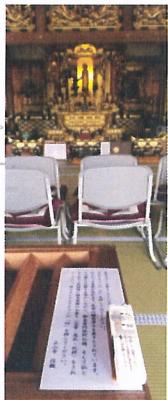
数珠の正式なかけ方は、手を持つときは左手で、合掌の時は手を合わせ親指と人差し指の間にかけます。一輪は親玉を下にして、二輪は2つの親玉を親指のところではさみ、房を左側に下げます。



※一般的な一輪の数珠（略念珠）
右：男性用の“ひも房”
左：女性用の“きり房”
珠の種類や数にこだわらず、お好みで。

浄土真宗では、数珠を煩悩を滅するため用いるのではなく、また念佛の回数を数えるためでもあります。仏前に礼拝する時の礼儀として用います。蓮如上人は御文の中で「数珠の一連をも持つ人なし、さるほどに仏を手づかみにこそされたり、」と戒められています。形にこだわるのではなく、数珠を持たないことを問題視されています。もし、正式な二輪の数珠を揃えるのであれば、宗派により仕立て方が違いますのでご注意ください。正山寺は「浄土真宗東本願寺派（真宗大谷派と同じお東の系統）」になります。

本堂のお参り



お自由に押して
みてください。

お墓参りの際、本堂の御本尊（阿弥陀仏）へのお参りはされていませんか？つい省略されてしまう方もいるかと思いますが、御本尊あつてのご先祖様です。日本で言えば、天皇陛下を前にして、挨拶せずに素通りするようなものです。是非参詣の際は、本堂正面の扉を開けてお参りされください。（法要時は扉を開けずにお願いします）折角お参りして頂くのに暗いまではと思い、この度、扉の中のお賽銭箱の上に「リモコン」を設置し、「入」を押すと、灯りがつき音楽が流れるようにしました。本堂は極楽浄土を表すとされています。その厳かなお飾りを味わいながら、御本尊、そして仏となられたご先祖様に報恩感謝のお参り（合掌・念佛・礼拝）を。その際、数珠をお持ちでしたら、合掌時におかげ忘れのないように。



皆さん健康に留意されているのが印象的でした。年配の方も若々しく元気な方ばかりでパワーをもらっています。よろしくお願ひ致します。

新年会開催

皆さん健康に留意されているのが印象的でした。年配の方も若々しく元気な方ばかりでパワーをもらっています。よろしくお願ひ致します。

1月にお世話になつてている世話人様と新年会を行いました。大寒の日でしたが、穏やかな天候に恵まれ、皆様も心が弾んでいるかのようで、楽しく過ごさせて頂きました。途中、全員から新年の抱負を発表して頂きましたが、参考になることも多く、何より自身への励ましにもなり、こういった場を設けるのも良いことだと改めて思いました。昨年は「災」という字が象徴しているように多くの災害が発生しました。何が起きても不思議ではない昨今、何かしら目標を持つて一日一日を大切に過ごして行きたいものです。良いお年に。

新年のご挨拶をしたかと思えば、間もなく新元号となる時期になりました。この4月から息子も新一年生です。お友達と仲良く多くのことを学びつつ成長してもらえば嬉しいです。残り少ない幼稚園では、いくつか発表会があります。その中の一つに、将来の夢についての発表があるそうです。息子は今まで様々な夢を語っていました。物心ついて最初に言ったのが、お気に入りのミニカーリフオームをしてくれた大工さん。次から次へと身近でなりたい職業を挙げていきました。恐る恐る「お坊さんは？」と聞いてみると、「お坊さんと○○」との返事：ちょっとと一安心することも。（笑）最近では、サッカー選手や歌手など幅広くなつてきました。住職は小学生の頃作文で、将来の職業はお坊さんと書いていたと母から聞きました。なりたかったと言うよりもうものだと思つていた、と後に住職は言つておりました。工

ジニアとしての職を経験しつつ、住職に落ち着いてくれて、母は安堵したこととあります。さて、我が息子は、なんと発表するのやら。

あとがき

ジニアとしての職を経験しつつ、住職に落ち着いてくれて、母は安堵したこととあります。さて、我が息子は、なんと発表するのやら。

坊守のコラム

ぼうもり※住職の妻

寺報「ほっ寺通信」 第18号

浄土真宗東本願寺派 野中山 正山寺

住 職：藤野慶正（発行責任者）
住 所：〒194-0201
町田市上小山田町1504
電 話：042-797-1446
FAX：042-797-9233
U R L：<http://shousan.net>
メ ラ：info@shousan.net